

# 集約化・提案型森林施業 かわら版

## 「地域ブロック国産材安定供給協議会」を全国各地で開催！

九州ブロックを皮切りに、6月6日～20日にかけて、全国7ブロックで開催されました。

会議では、各都道府県協議会事務局から、昨年度の施業集約化やC材を含めた原木の安定供給の実績と今後の取組方針について報告され、安定供給の一層の推進について意見交換が行われました。

また、林野庁からは、間伐材チップの紙製品への利用促進、間伐等促進法などについて説明がありました。

さらに、全森連からは、①今後、各都道府県段階で協議会を開催する際に、需要者をオブザーバーとして招き、原木供給可能量情報を活用した働きかけを強化すること、②A材からC材までトータルでの安定供給にブロック単位で取り組む必要があること、③施業集約化を行う森林組合と素材生産を行う民間事業者との連携を促進すること、などについて説明がありました。

このほか、平成20年度の森林施業プランナー育成研修、施業集約化・供給情報集積事業等の拡充内容等についても説明がありました。



協議会の様子(九州ブロック)



協議会の様子(中部ブロック)

### 各ブロックの協議会概要(安定供給の取組と今後の方針)

ブロック名	概要
北海道	数十年来、道森連が素材流通のコーディネーターとしてユーザーとの信頼関係を確立。量の確保と質の均一化を図り、ユーザーから更なる信頼を得ることが課題。パルプ用C材の需要も旺盛。道木連が事務局となって、道森連、素生協も加わり、製紙会社と年数回価格交渉を実施。
東北	協定取引により価格、販売量が安定するため、事業計画、高性能林業機械の導入計画などが立てやすくなったことがメリット。大型工場への大ロット安定供給体制を構築し、価格交渉を優位に進めるため、隣県との連携を強化していくことが課題。
関東	ブロック全体としての安定供給に取り組むため、ブロック内の県森連販売担当者会議を開催するなどして、供給先を想定した安定供給の取組を検討していくことが課題。
中部	ブロック内の各県森連が連携し、合板工場、製材工場等への共同出荷を実施。販売単価が安定すること計画的な事業量の拡大が可能になるほか、森林所有者への施業提案をしやすくなったことなどがメリット。
近畿	A材からC材まで近畿ブロック連携による共同出荷体制の構築が課題。
中国・四国	B材の販売価格の向上、出荷量の安定化が図られたこと、森林所有者に対する施業提案がしやすくなり、森林所有者の出荷意欲の向上につながったことがメリット。今後は、特に合板用の需要増に対応し、ブロック単位での安定供給体制の構築を検討。
九州	各県森連の会長専務会でブロック一体となって安定供給に取り組むことを決定。今後は事務レベルで取組を具体化。

# 森林施業プランナー育成研修 基礎コース終了

森林施業プランナーを養成するための基礎コース研修(日吉町)が6月20日をもって無事終了しました。今年は、参加希望者が多かったため、回数を5回(去年は4回)に増やして、延べ159人の方が受講されました。

今回の研修より、教材として新たに全国部会が作成した「提案型集約化施業 基本テキスト」やDVD「林業の再生を実現するために(提案型集約化施業と経営)」が活用されたことで、「わかり易い」と、研修生の評判もよく、前年と比較して研修の理解度は高い結果となりました。今後、研修生は、各ブロックのモデル組合において7月から始まる地域実践研修に参加し、モデル組合の提案型施業のやり方等を参考に地域にあった施業提案の手法を学ぶこととなります。

159名全員回答

## 研修生へのアンケート結果

今回の研修のねらいを、あなたはそれぞれの程度理解できましたか？

項目	評価平均
①提案型集約化施業の意義と必要性を理解すること	4.26
②森林施業プランナーの役割について理解すること	4.43
③日吉町森林組合の森林施業プランの基本的な考え方を理解すること	4.25
④森林施業提案書における単価設定の基本的な考え方を理解すること	3.83
⑤長期的な森づくりと間伐の意義について理解すること	4.18
⑥研修後に提案型施業に取り組むためのアイデアや知識を得ること	3.89
⑦今回の研修の内容、進行について満足度をお聞かせ下さい	4.26

5点満点評価

## ブロック別基礎コース参加者数等

ブロック名	組合等数	人数
東北A	12	12
東北B	7	7
関東	22	22
中部A	15	17
中部B	19	19
近畿	28	28
中国・四国A	9	9
中国・四国B	29	29
九州A	7	7
九州B	8	9
計	156	159

北海道ブロックは、7月10日～11日に札幌市にて実施。(20名参加予定)

### 研修1日目の様子



オリエンテーション  
“自分の壁を越える”

### 研修2日目



作業システムについて  
“無駄のない組合せが重要”

### 研修3日目



日吉町森林組合の施業プランの内容について

### 研修4日目



講義: 森づくりのビジョンと間伐の考え方 “まず残す木を決める”



講義: 日吉町森林組合の取組について  
“できないじゃなく、やれることを考えて”



道づくりについて  
“ヘアピン中心部に立木を残す”



標準地調査に基づくデータ等入力し  
施業提案書を作成



研修のふりかえり  
研修の感想や意見、課題等の共有



施業箇所の工程管理について  
“毎日、現場から報告、記録管理”



標準地調査について  
“調査道具はお金を掛けずに”



講義: 施業提案書と見積りの考え方  
“工程単価方式で見積り”



講師からのアドバイス  
“黙っているのは組織の損”

次のニュースレターの発行は8月上旬を予定しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyoukai/syuyakuka/newsletter.html>

企画・発行: 林野庁林政部経営課 提案型施業推進事務局 TEL: 03-3501-3810/Fax: 03-3502-1649